2019年11月期第２四半期　決算説明会

株式会社ラクト・ジャパン

2019年７月24日

目　次

1. 2019年11月期第２四半期連結累計期間業績　P.3

2. 部門別業績概要　P.9

3.アジア事業の展望　P.18

■ 中期経営計画NEXT-LJ2021　P.25

■ 参考資料

● 為替リスクと会計上の表示について　P.28

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

発表のポイント

■連結業績

連結売上高

- 連結売上高は、前年同期比、計画比とも減収
- 主力の乳原料・チーズ部門において脱脂粉乳需要の反動減の影響および食肉加工品部門の販売減が背景
- 一方、アジア事業は順調に推移
  特にチーズ製造販売部門では売上高、販売数量とも第２四半期としては過去最高を更新

経常利益

- 経常利益は12.5億円となり、前年同四半期比で1.1億円の増益
- 為替影響を加味した場合でも、経常利益は13.5億円となり計画を上回って進捗

■通期業績予想

- 日本国内の脱脂粉乳在庫の影響により脱脂粉乳の販売軟調を想定している一方で、チーズやバターなどその他の乳製品原料は堅調な販売を想定
- さらに好調なアジア事業も勘案し、売上高・経常利益ともに期初予想どおりの着地を見込む

■中長期的な成長に向けて

- 国内生乳生産量の減少による輸入乳製品原料への需要増という中長期トレンドは継続
- TPP 11や日欧EPAなどの自由貿易協定を利用した取引も増加、今後進捗が想定される米国との2国間協定も追い風
- アジア市場の需要増に対応するため、フィリピンに拠点を新設（2019.10設立予定）、さらなる需要の取り込みを目指す
- 当社が日本市場で長年培ってきた、提案力、調達力、情報力、サービス力を武器に日本やアジアにおいてさらなる業容拡大を目指す

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

1

2019年11月期第２四半期連結累計期間業績

Lacto Japan

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

連結業績概要

（財務数値の表示は端数切り捨て　単位:百万円）

	2018年11月期 2Q	2019年11月期 2Q 実績	2019年11月期 2Q 対前年同四半期比増減額	2019年11月期 2Q 対前年同四半期比増減率(%)	2019年11月期 年間予想
連結売上高	59,164	57,712	△1,452	△2.5	125,200
経常利益	1,133	1,252	119	10.5	2,800
売上高経常利益率（%）	1.9	2.2	0.3	-	2.2
(経常利益に含まれる為替影響額※1)	(△245)	(△99)	(146)	-	-
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益	736	887	151	20.5	1,930
売上高当期純利益率（%）	1.2	1.5	0.3	-	1.5
一株当たり四半期（当期）純利益（円）	75.25※2	90.55	15.30		196.77※2
為替レート（円/USD）	109.18	110.78	1.60		-
為替レート（円/EURO）	132.52	125.30	△7.22		-

※1 経常利益に含まれる為替影響額：当社は外貨為替会計処理基準における原則法を採用しているため、為替ヘッジの影響が売上原価と営業外損益の両方に計上されます。
そのため売上原価と営業外損益両方に対する為替ヘッジの影響額を記載しております（詳細はP28以降の参考資料をご覧ください。）

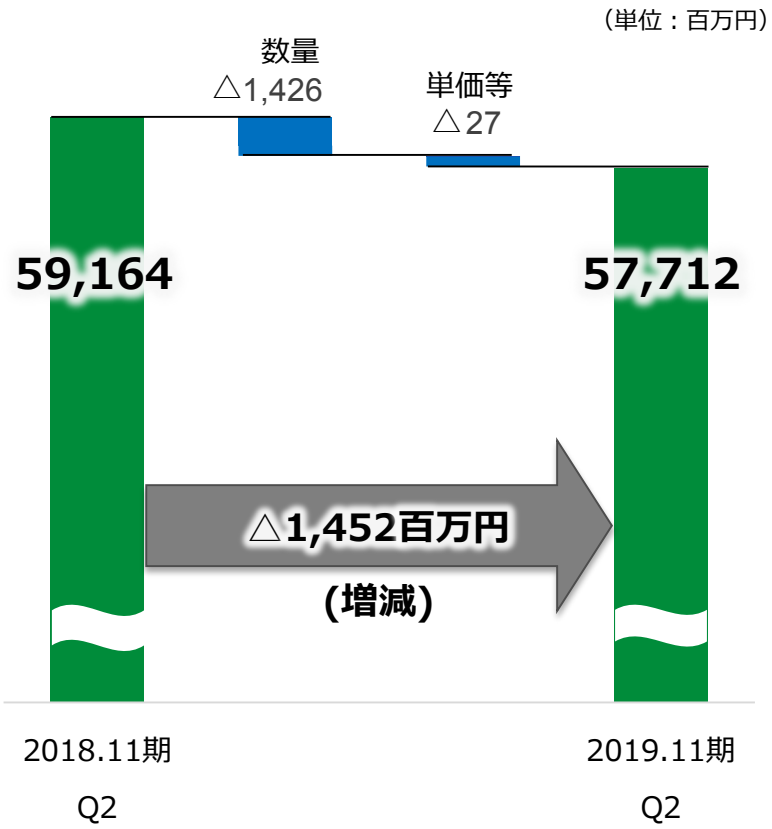
※2 当社は、2019年５月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「１株当たり四半期純利益」を算定しております。

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

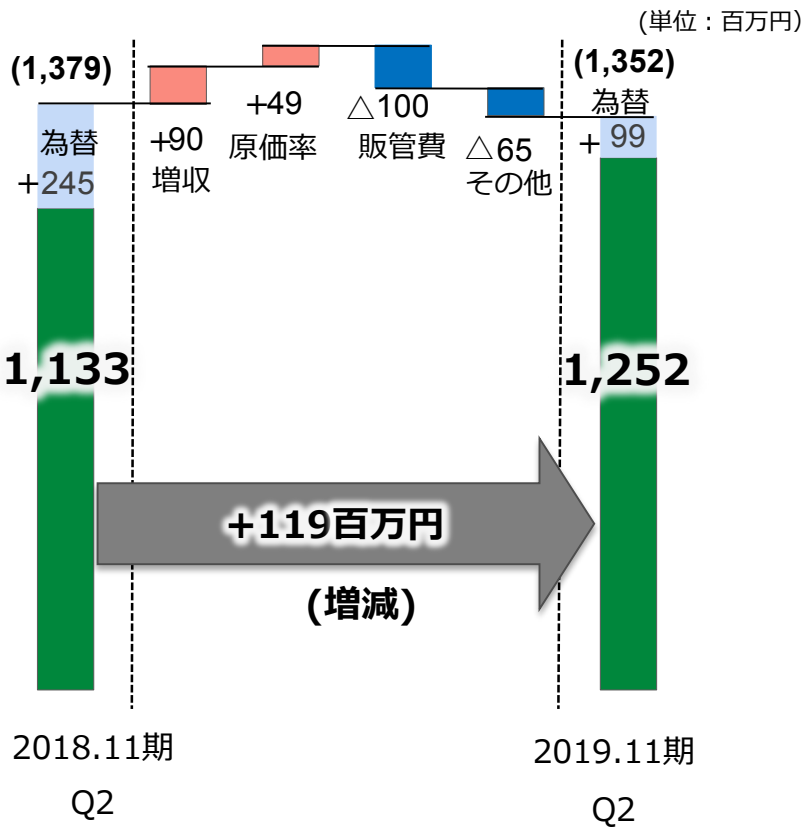
売上高・経常利益の増減要因分析

売上高は数量減により減収。
経常利益はアジア事業の増収等により増益。

■ 連結売上高



■ 連結経常利益



Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

事業部門別概況（売上高・販売数量）

乳原料・チーズは脱脂粉乳需要の反動減の影響が残る。
アジア事業は販売好調により増収。

事業部門別売上高

（単位：百万円）

	2018年 11月期２Q	2019年 11月期２Q	増減額	増減率
乳原料・チーズ	43,812	42,675	△1,136	△2.6%
食肉加工品	6,616	6,104	△512	△7.7%
アジア事業・その他	8,735	8,932	196	2.2%

部門別販売数量

（単位：t）

	2018年 11月期２Q	2019年 11月期２Q	増減	増減率
乳原料・チーズ	104,168	100,139	△4,029	△3.9%
食肉加工品	11,366	10,511	△855	△7.5%
アジア事業（乳原料販売）	26,431	27,892	1,460	5.5%
アジア事業（チーズ製造販売）	1,289	1,804	514	39.9%

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

連結貸借対照表

（単位：百万円）

	2018年11月末	2019年5月末	増減額
流動資産	**46,337**	**45,416**	**△920**
現金及び預金	4,929	5,119	189
受取手形及び売掛金	15,873	14,688	△1,184
棚卸資産	25,216	25,149	△66
流動資産その他	318	458	140
固定資産	**2,630**	**2,429**	**△201**
有形固定資産	597	507	△90
無形固定資産	39	33	△6
投資その他の資産	1,994	1,888	△105
資産合計	**48,967**	**47,845**	**△1,122**
買掛金	11,173	11,812	638
有利子負債	20,948	18,977	△1,971
負債その他	2,413	2,465	51
負債合計	**34,536**	**33,254**	**△1,281**
純資産	**14,431**	**14,590**	**159**
負債・純資産合計	**48,967**	**47,845**	**△1,122**

（財務数値の表示は端数切捨て、内訳は主要項目のみ記載）

主な増減要因

- **売掛債権の減少**
  売掛債権流動化による債権回収の早期化
- **買掛金の増加**
  商品仕入れの増加
- **有利子負債の減少**
  短期借入金の返済

※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号平成30年２月16日）等を当第１四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	2018年 11月期２Q	2019年 11月期２Q	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	△4,388	2,506	6,895
投資活動による キャッシュ・フロー	△6	233	239
財務活動による キャッシュ・フロー	4,584	△2,250	△6,834
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△29	△55	△25
現金及び現金同等物の 増減額	159	434	274
現金及び現金同等物の 期首残高	2,987	3,477	489
現金及び現金同等物の 期末残高	3,147	3,911	763

（財務数値の表示は端数切捨て、内訳は主要項目のみ記載）

主な増減要因

- **営業CFのプラス**

  売掛債権流動化による債権回収の早期化

- **投資CFのプラス**

  定期預金の解約による資金効率の改善

- **財務CFのマイナス**

  営業CFならびに投資CFのプラスによる短期借入金の返済

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

2

部門別業績概要

Lacto Japan

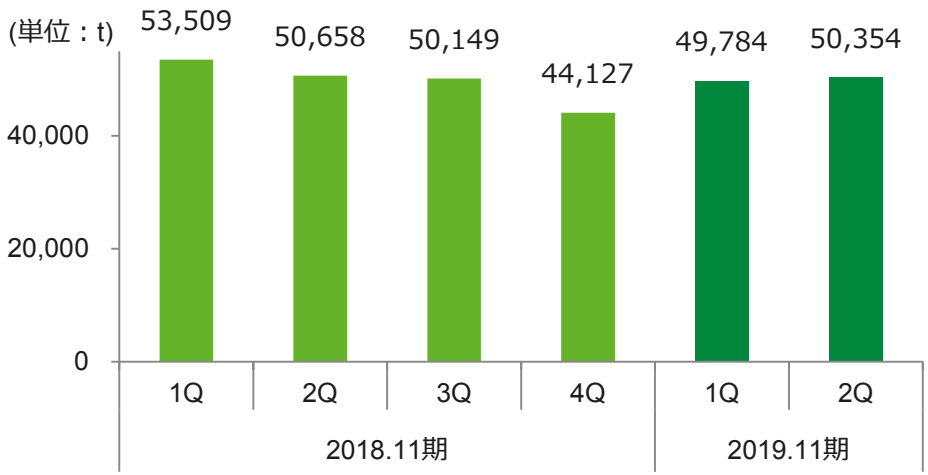
Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

乳原料・チーズ事業

■部門別売上高・数量

	2018年11月期		2019年11月期			
	2Q累計	通期	2Q累計	前年同四半期比	前年同四半期比率	通期見通し
売上高（百万円）	43,812	85,290	42,675	△1,136	△2.6%	92,270
数量（t）	104,168	198,445	100,139	△4,029	△3.9%	209,320

■数量推移



■上期業績

売上高　426億円（2.6%減）

- ◆ 脱脂粉乳の需給緩和による販売減。
- ◆ 国産バターの不足感、輸入バター価格の低下、ALIC（※）によるバター入札の定例化等により輸入バター需要が拡大
- ◆ TPP11や日欧EPAなどの自由貿易協定による関税引き下げでチーズ販売が好調

事業環境

- ◆ 国内生乳生産量の減少傾向の継続および国内乳価の引き上げにより輸入原料への需要は堅調
- ◆ 前期需給が逼迫していた脱脂粉乳は、今期は需給緩和により国内在庫が増加

■下期の見通し

- ◆ 国内の脱脂粉乳在庫により、脱脂粉乳の販売は伸び悩む
- ◆ TPP11や日欧EPAなどの自由貿易協定の枠組みを利用した輸入乳製品原料の販売増
- ◆ 国産のバター不足や国際バター価格の値下がりによるバター販売堅調

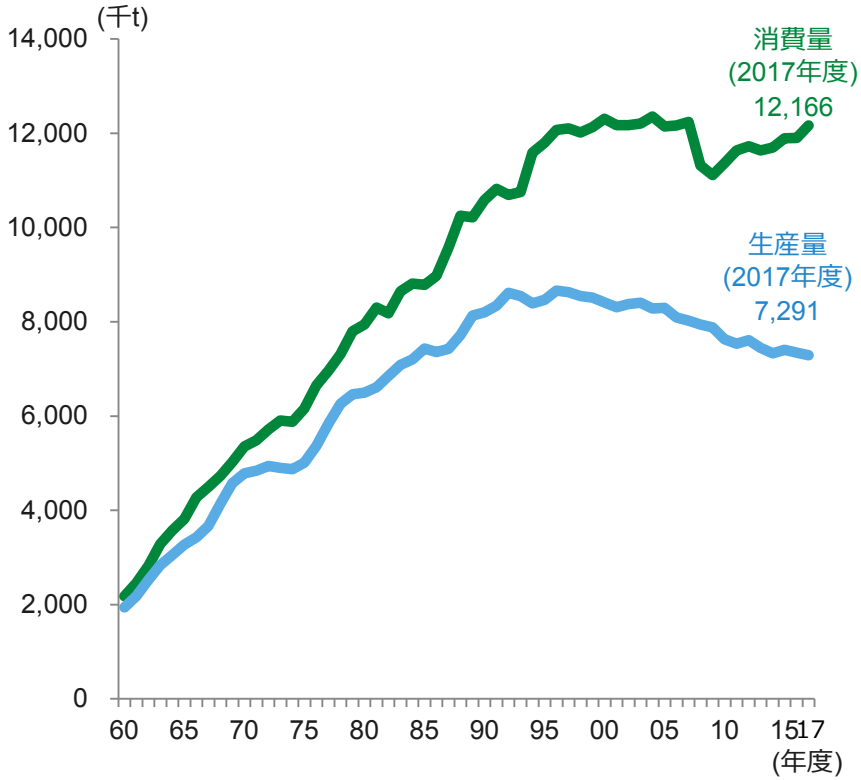
（※）独立行政法人農畜産業振興機構

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

乳製品向けを中心に国内需要は引き続き高水準

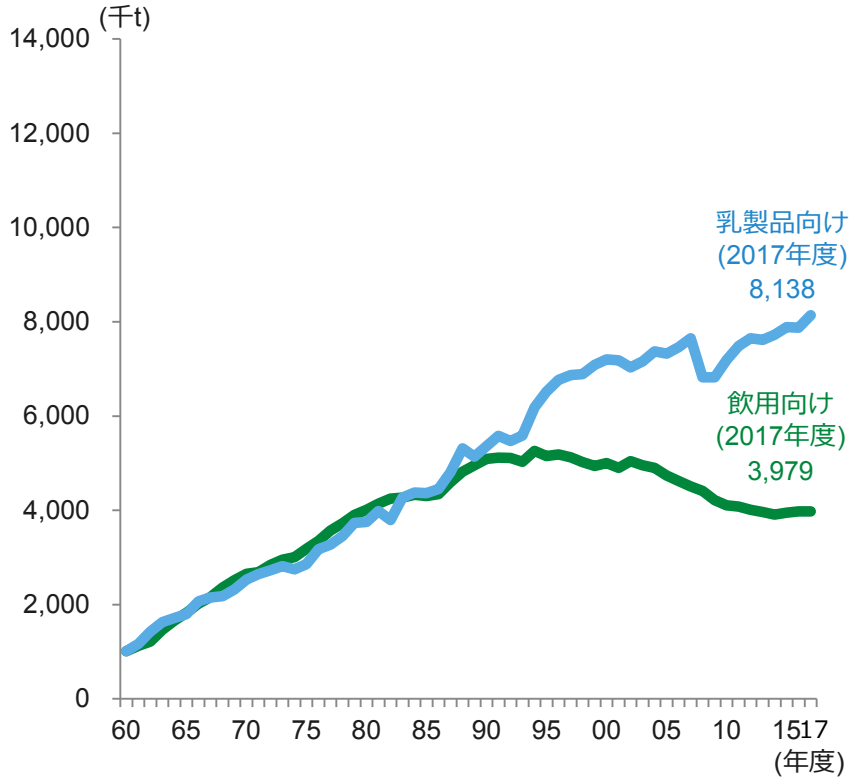
生乳の国内生産量の低下傾向が続くなか、牛乳・乳製品消費量は高水準が続く。
2015年度以降は飲用向けも上昇に転じ、国内需要はますます旺盛。

■生乳の国内生産量と牛乳・乳製品消費量



出典：農林水産省「平成29年度食糧需給表」（2017年度は概算値）
注：データは生乳換算

■牛乳および乳製品の国内消費量の内訳



出典：農林水産省「平成29年度食糧需給表」（2017年度は概算値）
注：データは生乳換算

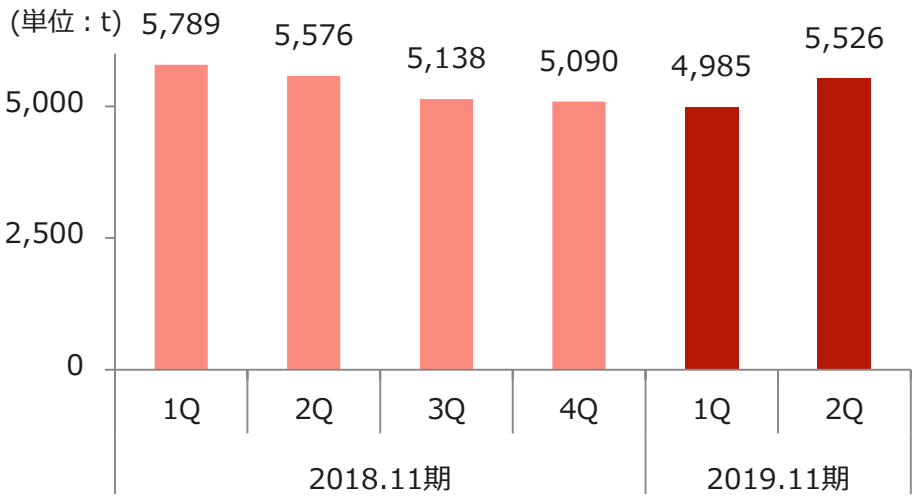
Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

食肉加工品事業

■部門別売上高・数量

	2018年11月期		2019年11月期			
	2Q累計	通期	2Q累計	前年同四半期比	前年同四半期比率	通期見通し
売上高（百万円）	6,616	12,576	6,104	△512	△7.7%	15,320
数量（t）	11,366	21,595	10,511	△855	△7.5%	26,260

■数量推移



■上期業績

売上高　61億円（7.7%減）

- 国内の豚肉市況が軟調のため、主力である豚肉商品の販売が減少
- 生ハムやサラミなどの加工食品は、営業努力により販売増

事業環境

- 2018年後半から国産豚が増産となり、需要が外国産から国産にシフト
- ハムソーセージ等の最終製品の販売が低迷
- アフリカ豚コレラの影響により中国国内の豚が減少、国際市場に大量の需要が発生し、国際価格が上昇

■下期の見通し

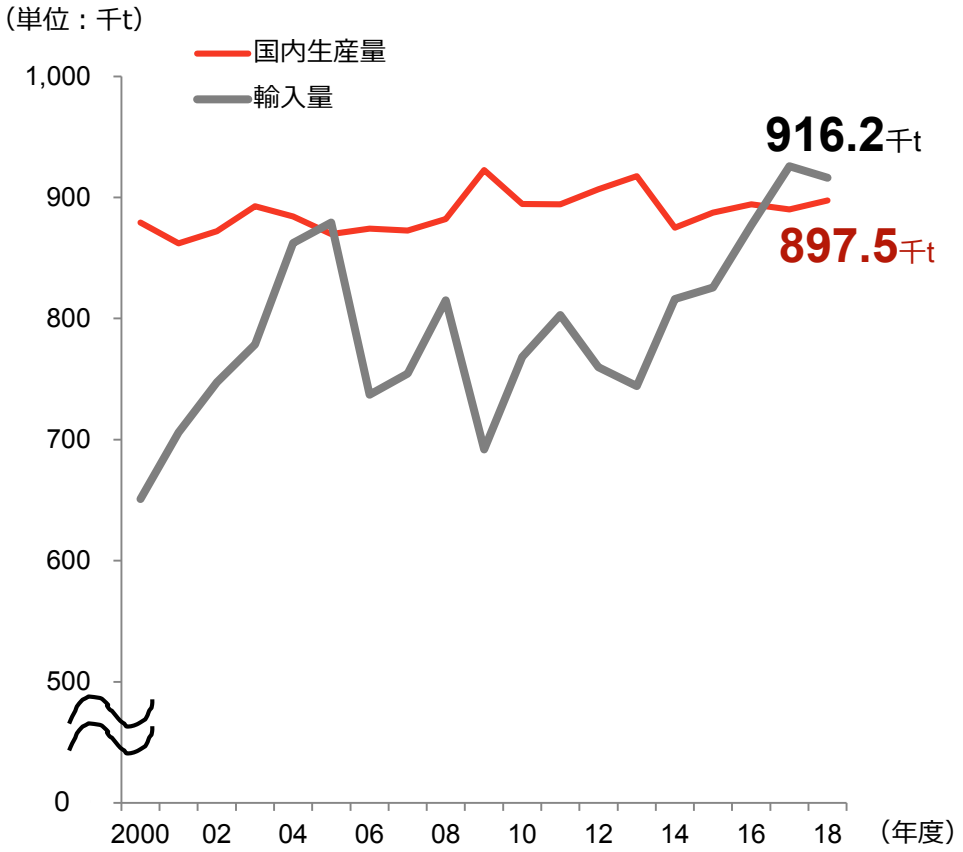
- 国産豚の生産量が減少見込み（需給改善）
- 上期に取り組みをスタートしたいくつかの新規商売が下期に進捗（販売回復）

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

豚肉の輸入量は増加傾向

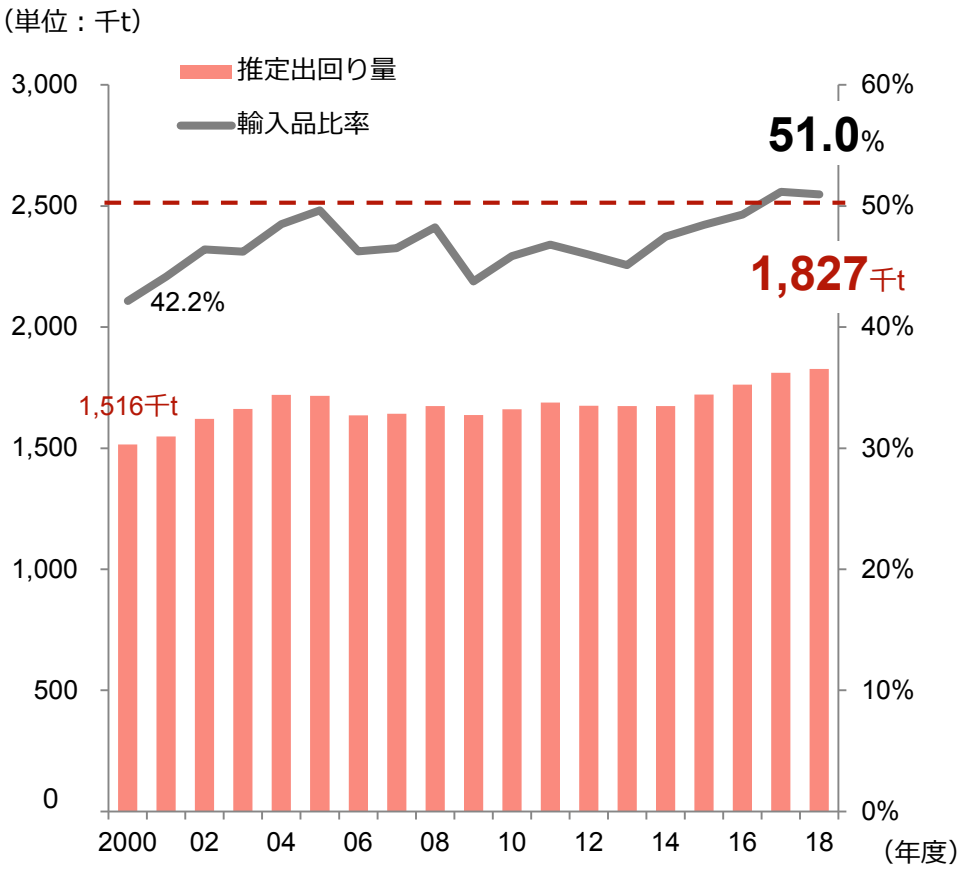
豚肉輸入量は高水準で推移。国内市場では輸入豚肉の認知度定着。

■豚肉の生産量と輸入量（国内）



出典：ALIC　豚肉需給表

■豚肉の需要（出回り量）と輸入品比率



出典：ALIC　豚肉需給表

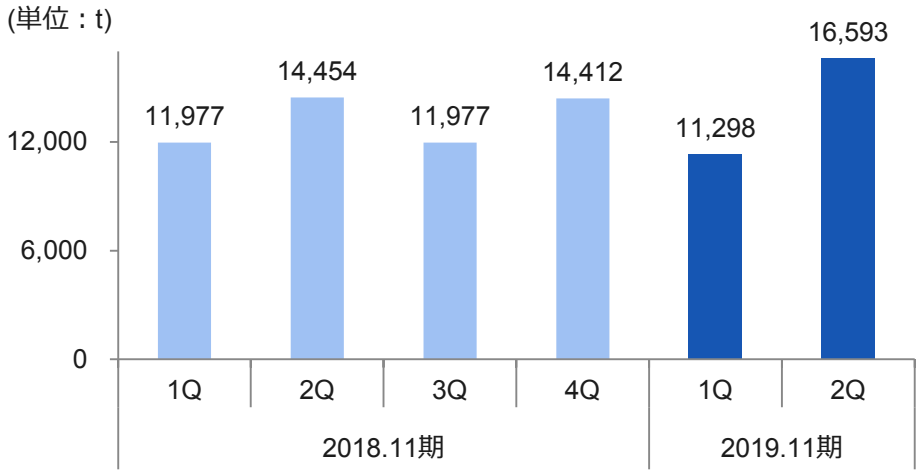
Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

アジア事業（乳製品販売事業）

■部門別売上高・数量

	2018年11月期		2019年11月期			
	2Q累計	通期	2Q累計	前年同四半期比	前年同四半期比率	通期見通し
売上高（百万円）	7,302	14,578	7,303	+0	+0.0%	14,330
数量（t）	26,431	52,822	27,892	+1,460	+5.5%	54,700

■数量推移



■上期業績

売上高　73億円（0.0%増）

- ◆ 現地企業向け販売が順調に拡大
- ◆ オセアニア産の乳原料価格の上昇により当社の仕入ルートを活用した欧州産の販売が進捗

事業環境

- ◆ 食の欧米化の定着による乳製品市場の拡大継続
- ◆ 品質、情報、サービスを求める顧客層の増加（価格以外の付加価値へのニーズ増加）

■下期の見通し

- ◆ アジア市場における乳製品需要の拡大は当面継続
- ◆ 当社の提案力を活用し、既存取引の拡充と新規取引の開拓に取り組むことでさらなる業容の拡大に努める

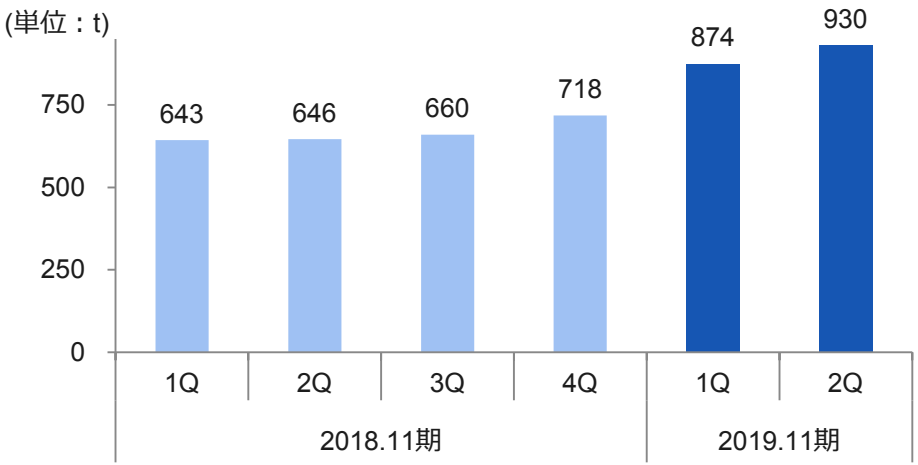
Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

アジア事業（チーズ製造事業）

■部門別売上高・数量

	2018年11月期		2018年11月期			
	2Q累計	通期	2Q累計	前年同四半期比	前年同四半期比率	通期見通し
売上高（百万円）	997	2,116	1,284	+287	+28.8%	2,380
数量（t）	1,289	2,668	1,804	+514	+39.9%	3,100

■数量推移



■上期業績

売上高　12億円（28.8%増）

- ◆ 商品ラインナップとして機能性商品に加え、価格訴求品も充実させたことで顧客の囲い込みを図った
- ◆ タイでは営業担当者を増員するなど営業力を強化し、従来の代理店経由の販売増に加え、自社ルートでの直接販売も堅調に推移

事業環境

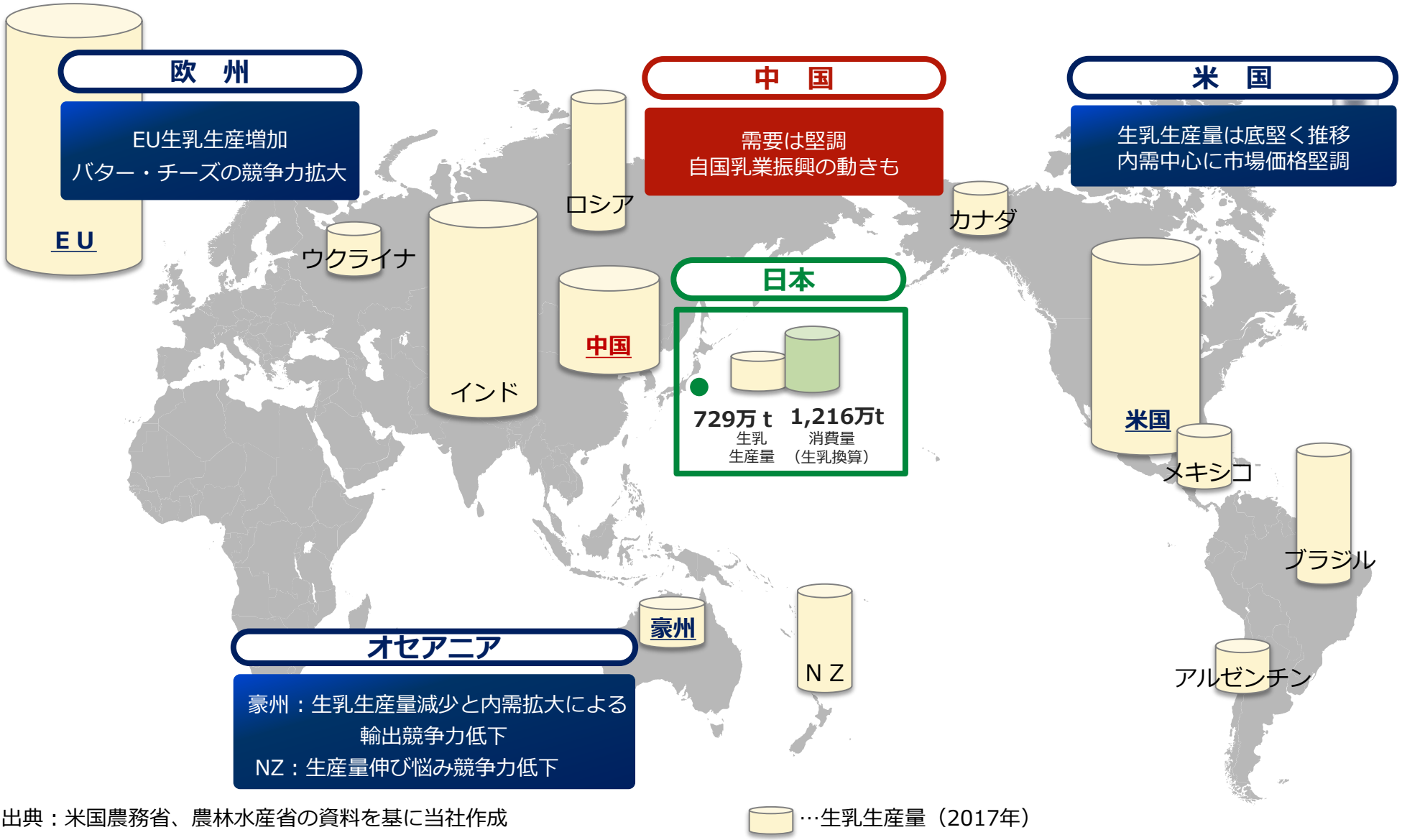
- ◆ 主要な販売国であるシンガポール、マレーシア、中国、タイにおけるチーズ需要の拡大
- ◆ 市場拡大に伴い、低価格志向も強まっており価格訴求型の商品開発案件が増加

■下期の見通し

- ◆ アジア市場におけるチーズ需要の拡大傾向は継続
- ◆ 顧客ニーズに対応した商品開発によるさらなる取引の拡充
- ◆ 増員した営業部隊を活用した営業力の強化

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

事業環境①　グローバル事業環境



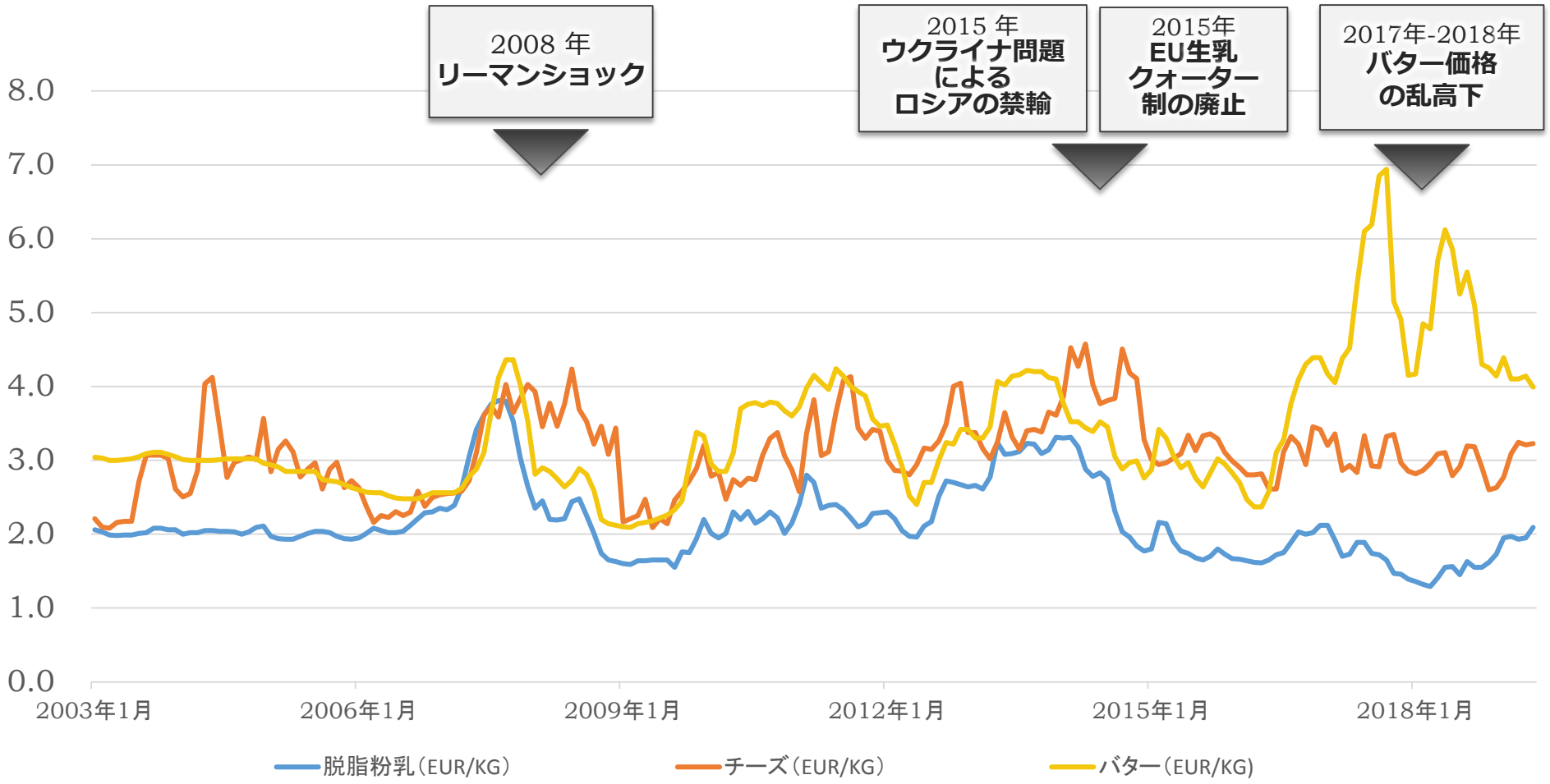
出典：米国農務省、農林水産省の資料を基に当社作成

…生乳生産量（2017年）

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

事業環境②　国際市況の推移

国際市況は2007年～2009年に乱高下したものの、足元では比較的安定傾向。
2018年は脱脂粉乳・チーズ価格は低位安定したものの、バター価格は変動。



Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

3

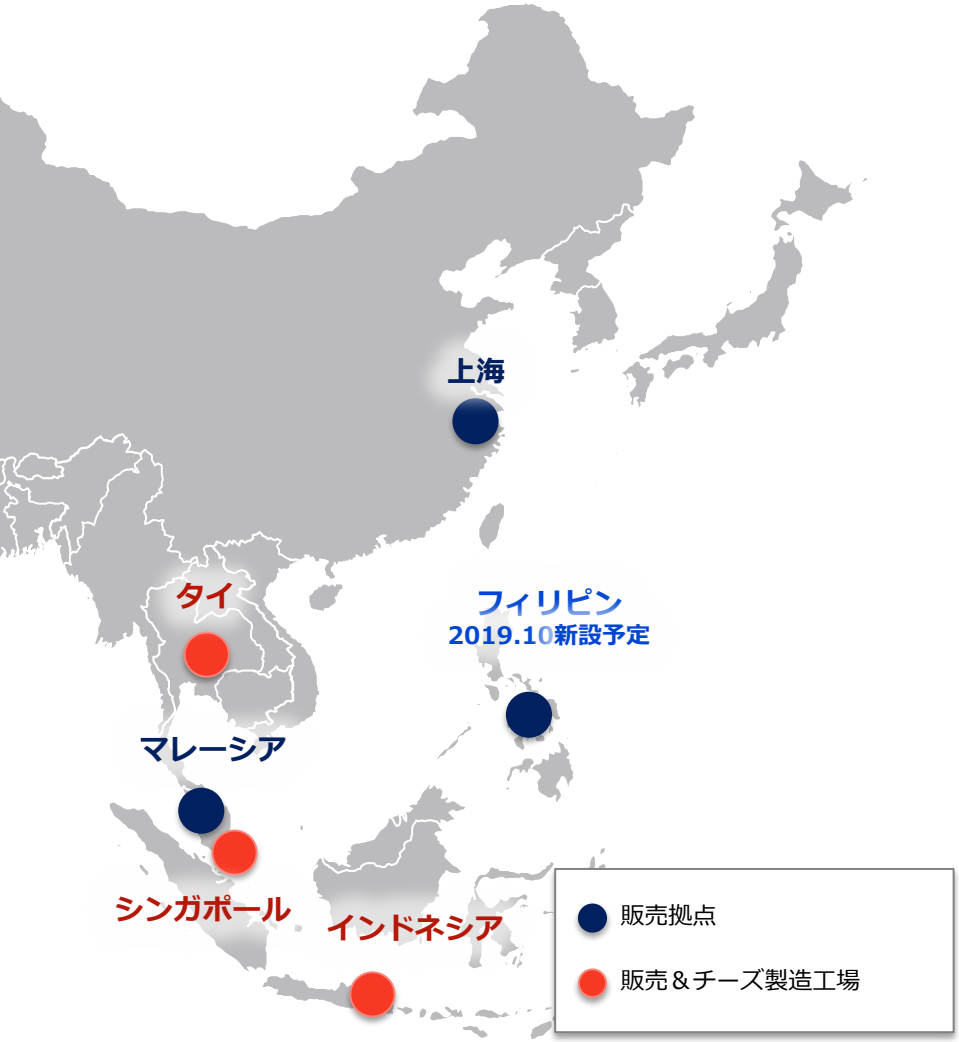
アジア事業の展望

Lacto Japan

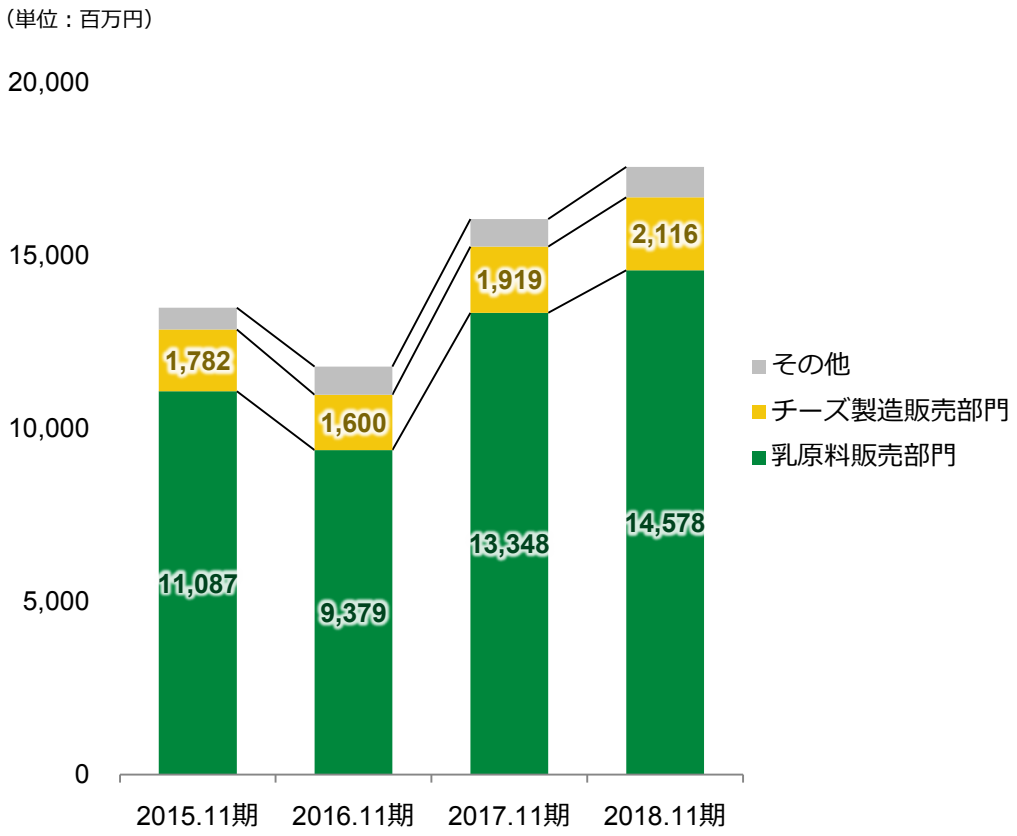
Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

アジア事業の概況概要①

乳製品販売が主軸だが、近年チーズの製造販売事業も拡大中



■アジア・その他事業部門の売上高推移



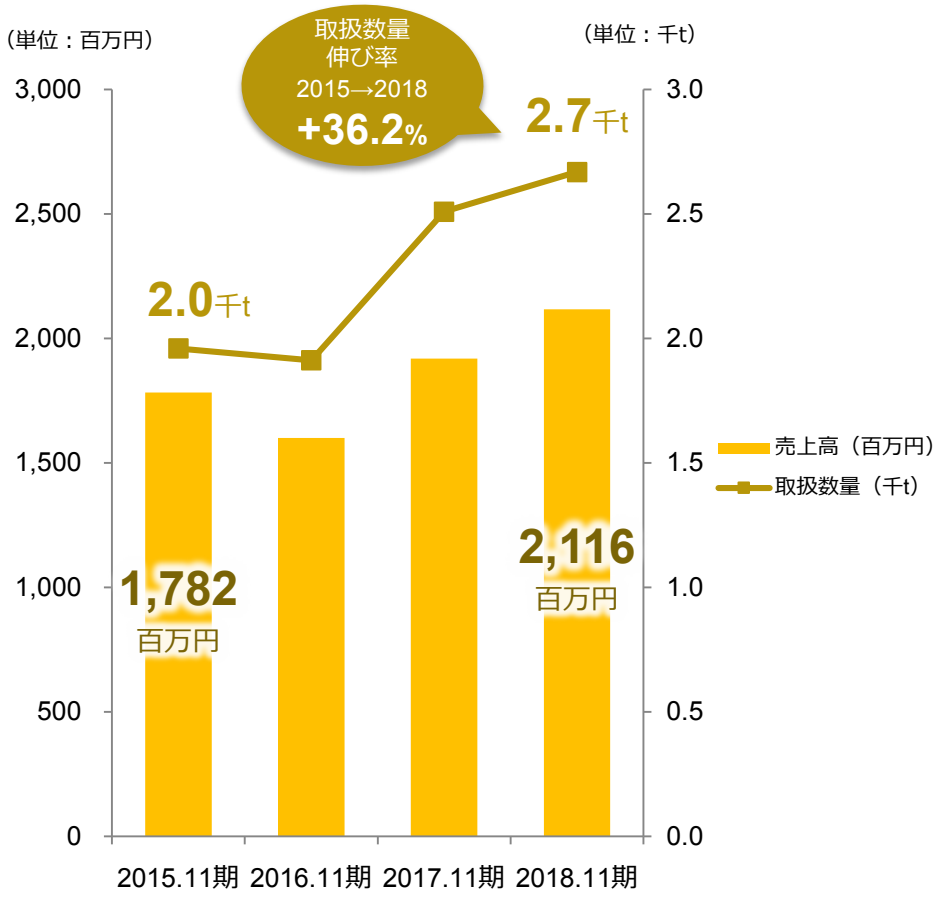
Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

アジア事業の概要②

乳原料販売・チーズ製造販売ともに取扱数量を伴いビジネスは順調に拡大

■乳原料販売事業（商社）

■チーズ製造販売事業（メーカー）

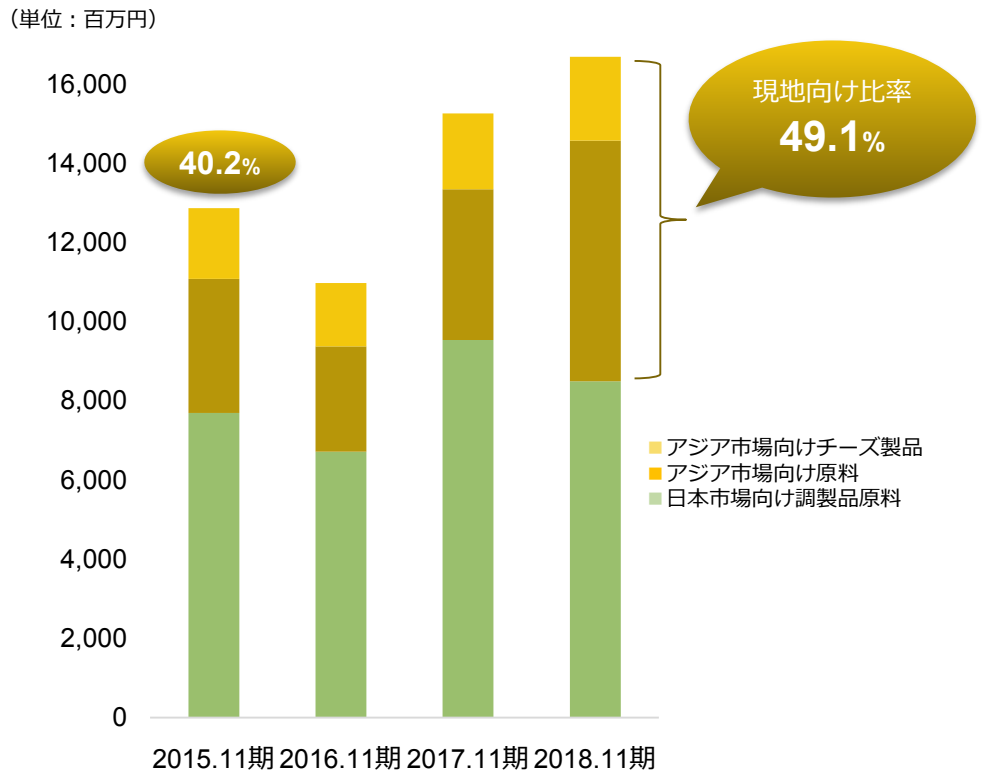


Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

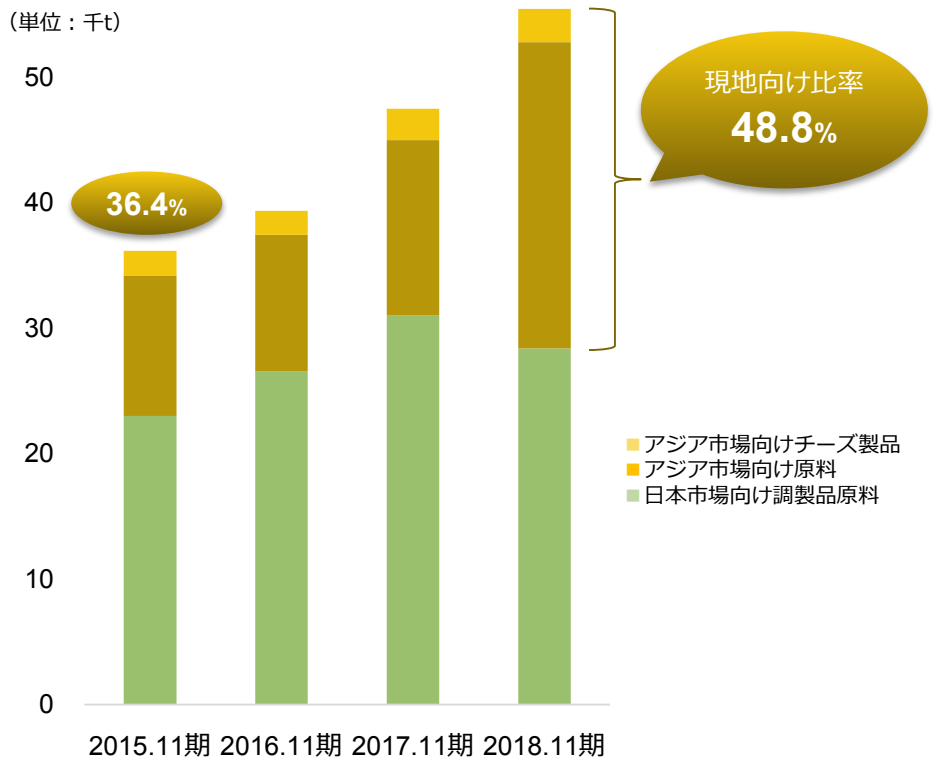
アジア事業の概要③

キーワードは「現地化」
アジア市場向け商品の取扱数量拡大が、アジア事業拡大の背景

■販売市場別　売上高



■販売市場別　数量



（注）上記データには、グループ内売上高・販売数量を含みます。

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

アジア事業拡大の背景

強みを活かし、現地企業のニーズを着実に把握、事業拡大に結び付ける

当社の強み

多様なサプライソースを確保

伝統的にオセアニア地域からの輸入が主流だったが、近年の気候変動や食の欧米化の進展により、安定供給や多様な原料を求めるユーザーが拡大。（商社）

顧客目線に立った提案型営業

価格だけではなく、産地、機能などニーズに合わせた原料を提案。（商社）

価格や機能など多種多様なニーズに対応した製品開発と納期対応。（メーカー）

きめ細やかな現地対応力

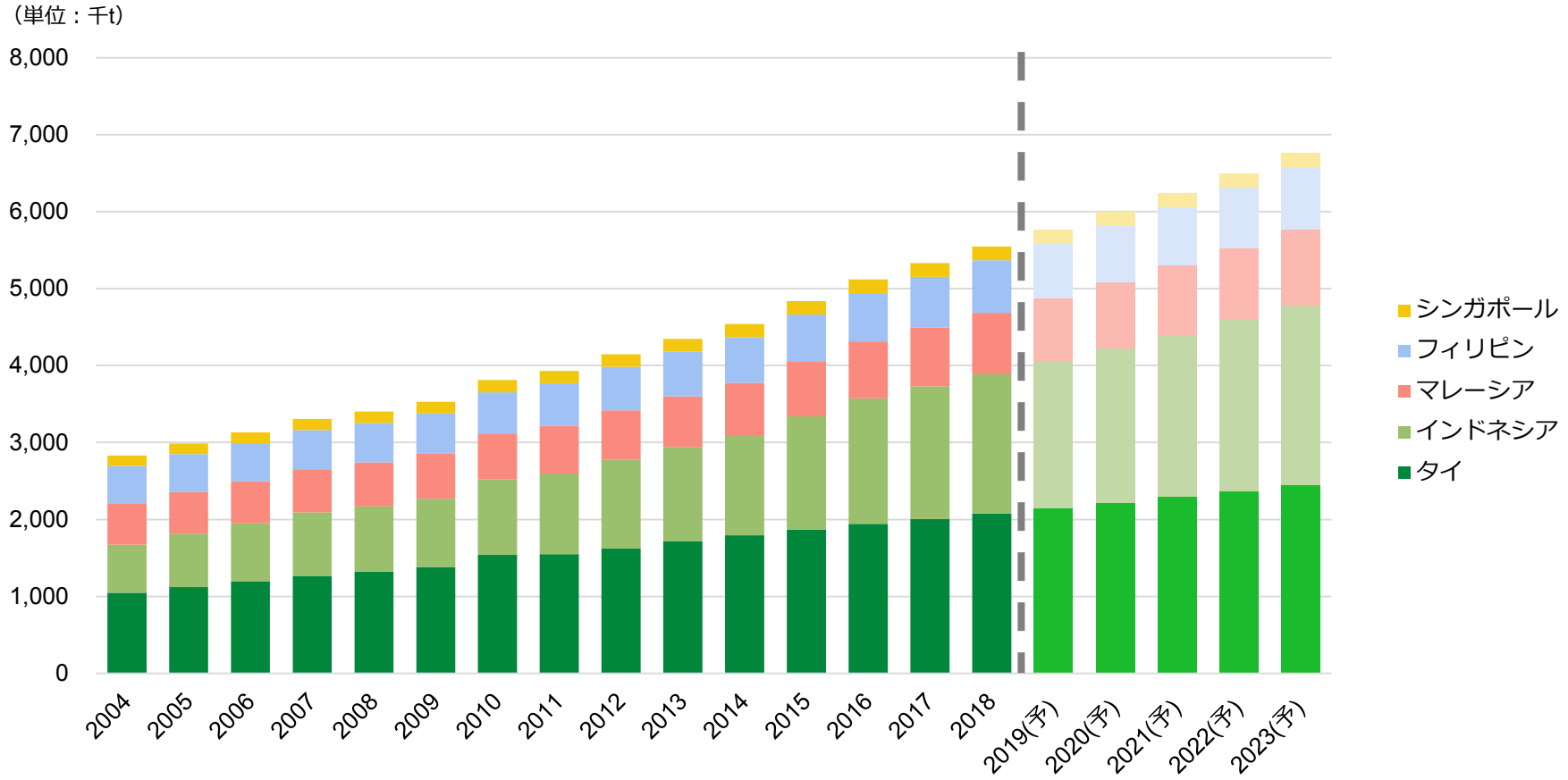
各国ごとのニーズの把握やきめ細やかな顧客対応のため、営業人員を増加。
（商社・メーカー）

顧客ニーズ+商品開発+納期対応＝「Market In」型アプローチ。（メーカー）

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

アジア主要国における乳製品ビジネスの拡大余地は十分

■アジア主要国の乳製品販売数量



出典：Euro Monitor International

(注)上記データは、チーズ、バター、スプレッド類、飲用乳、はっ酵乳、その他乳製品の販売数量の合計を地域別に集計したものです。

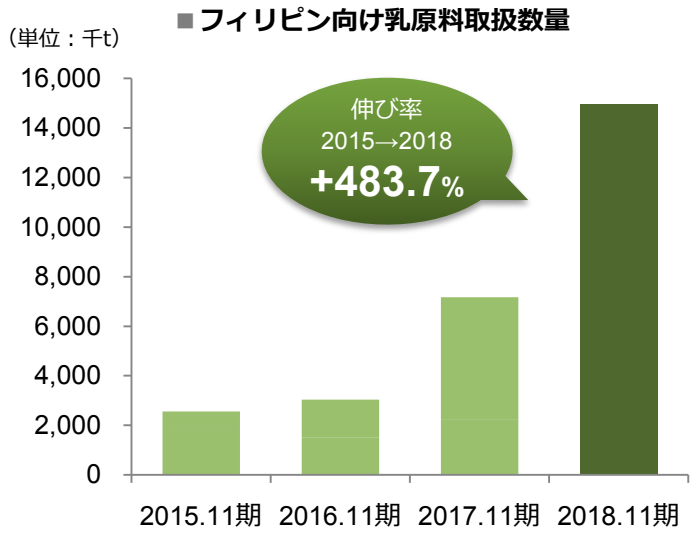
Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

フィリピン現地法人の設立について

東南アジアにおける販売ネットワーク強化を目的に新たに現地法人を設立予定（孫会社）

会社名	Lacto Asia(Philippines)Inc.（仮）
事業内容	乳原料・チーズ等の仕入れ販売
所在地	フィリピン共和国　マニラ
資本金	50万USドル（約5,500万円）
出資比率	Lacto Asia Pte Ltd.（シンガポール） 100%
設立	2019年10月（予定）

- 東南アジアでの販売シェア拡大に向けた戦略拠点
- 急増するフィリピン向けビジネスへの対応
- ローカル顧客への対応力強化



Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

中期経営計画NEXT-LJ2021

Lacto Japan

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

新中期経営計画「NEXT-LJ2021」

「NEXT-LJ2020」の順調な進捗を受け、2019年1月に中期経営計画「NEXT-LJ2021」の目標値を更新。

2018年11月期実績

売上高	1,154億円
経常利益	26.1億円
親会社株主に帰属する当期純利益	17.8億円

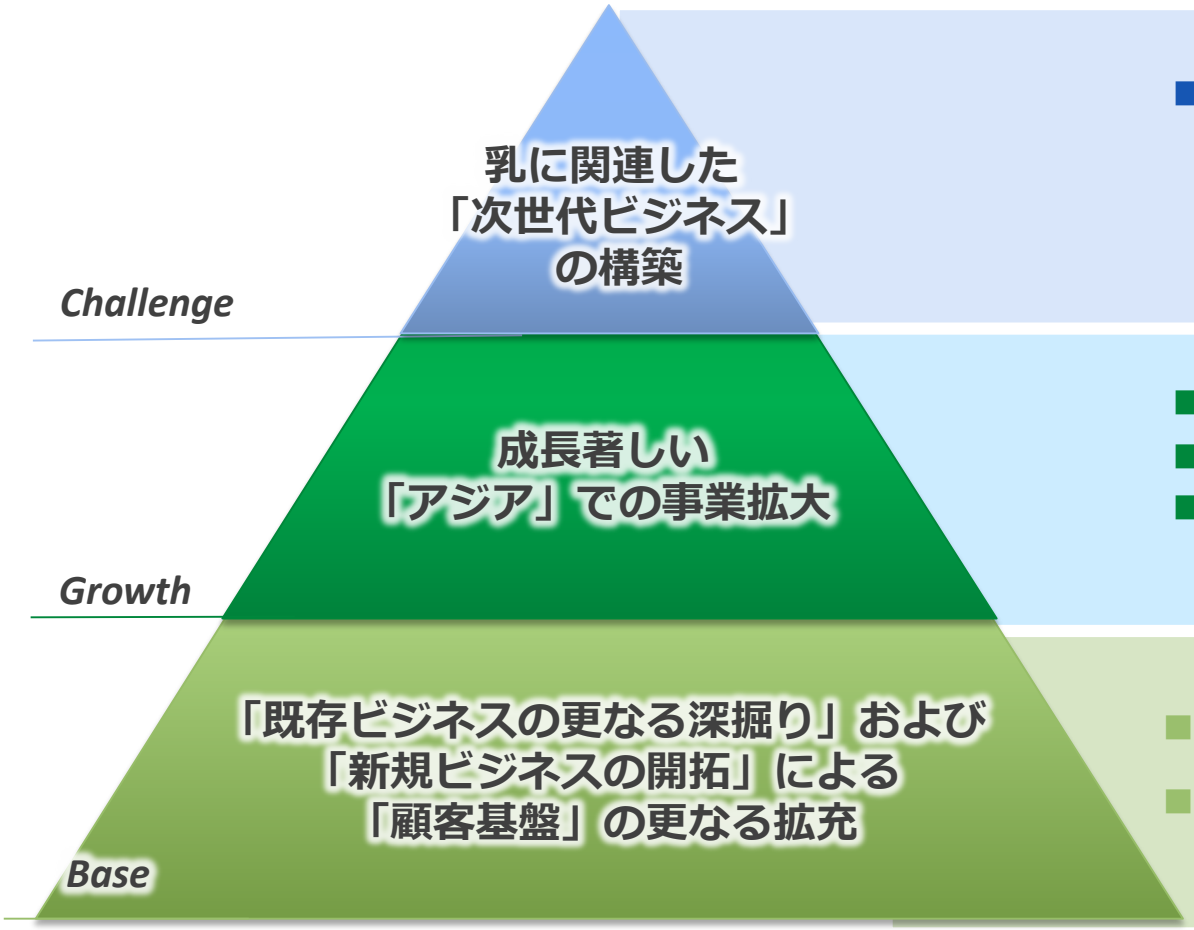
2021年11月期目標

売上高	1,450億円(+26%)
経常利益	34億円(+30%)
親会社株主に帰属する当期純利益	24億円(+35%)

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

基本方針と主な施策は継続。

Global Food Professional Companyとして、消費者の皆様に健康と食の楽しさを提供



- 事業提携やＭ＆Ａも視野に、既存事業とのシナジーが見込める新規ビジネスを構築

- 商品バリエーション拡大
- 「ラクト」ブランドの浸透
- 未進出地域の販売ルート開拓（東南アジア等）

- 仕入、販売先との関係強化
- 新規商品の開発と新規顧客の開拓

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

参考資料：為替リスクと会計上の表示について

Lacto Japan

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

当社の為替リスクと会計上の表示について

Lacto Japan

■当社は基本的に為替リスクは負わないビジネスモデル。

海外仕入先との外貨建て仕入契約締結と同時に、国内顧客と円貨の販売契約締結。

その際、仕入外貨額に対する為替予約をすることで為替リスクをヘッジしている。

但し、当社は会計処理基準における原則法を採用しているため、会計上の表示が特徴的。

1. **売上総利益と営業外損益（為替差損益）の表示に常に影響。**
2. **決算期末をまたぐ取引（翌期以降に販売）は期間損益の表示に影響が発生。**

■表示の特徴

取引の段階に応じて、計上に使用する為替レートが異なるため、

取引の途中段階において、為替差損益が生じる。

最終的には当初の為替レートにより計上された売上・売上原価になるので実質的な利益に影響はないが、売上計上前の取引の途中段階においては

①売上総利益と営業外損益の表示に影響するほか、

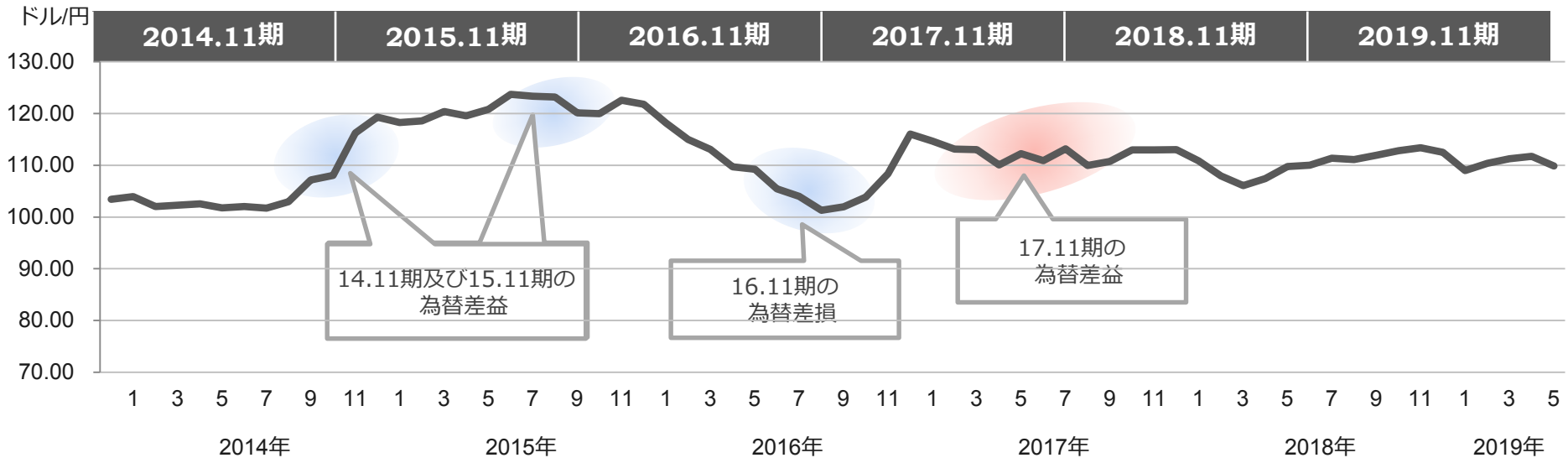
②計上が期間をまたがることにより、期間損益に影響する。

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

為替差損益について

為替レートの推移（スポットレート東京市場終値）

出典）日経QUICK



売上高および利益の実績（連結）

（単位：百万円）

	2014.11期	2015.11期	2016.11期	2017.11期	2018.11期
売上高	96,549	98,000	88,679	101,334	115,440
売上総利益	4,258	3,648	6,345	5,386	6,510
営業利益	1,531	720	3,349	1,923	3,009
為替差損益(※)	638	1,052	△1,537	1,158	△135
経常利益	1,653	1,343	1,434	2,522	2,612

※営業外損益における為替差損益の推移

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

売買取引のイメージ（為替の影響）

為替レートが変動しても、実質的な利益には影響しない。

①売買契約時点 → ②船 積 時 点 → ③仕入決済時点 → ④販 売 時 点

2~3ヵ月　　2~3ヵ月

処理

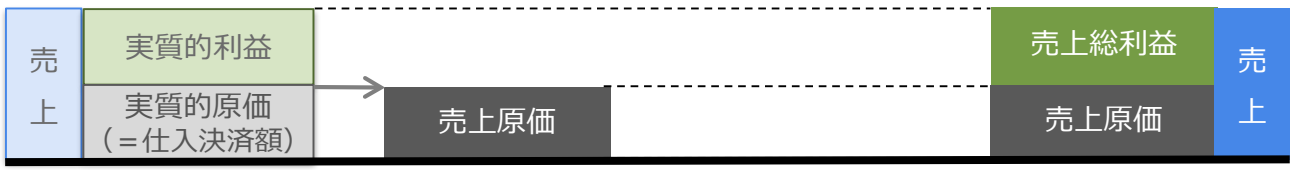
■為替予約（①時点レート）
※同時期に行う処理
■仕入先と外貨建て契約
■販売先と円建て契約
＝実質的な利益確定

■仕入計上
＝実勢為替レート
（②時点レート）

■①と②時点の
為替変動差を
為替差損益として
計上

■売上計上
（①時点で契約した
円建金額）

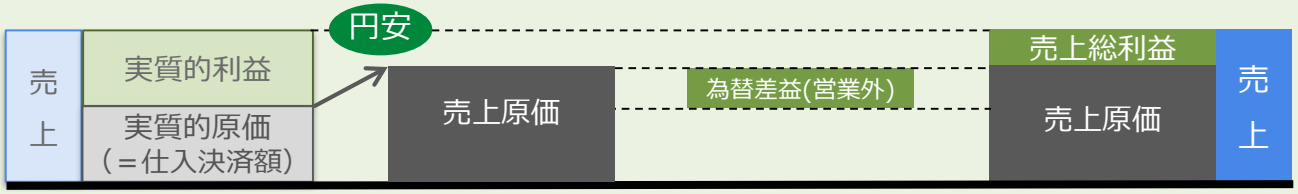
為替レート 変動なし



取引終了時(④まで終了)
④の販売まで終了した時点では、①～④時点の処理が通算され、①時点の実質的利益及び実質的原価と同額が会計上も計上される。

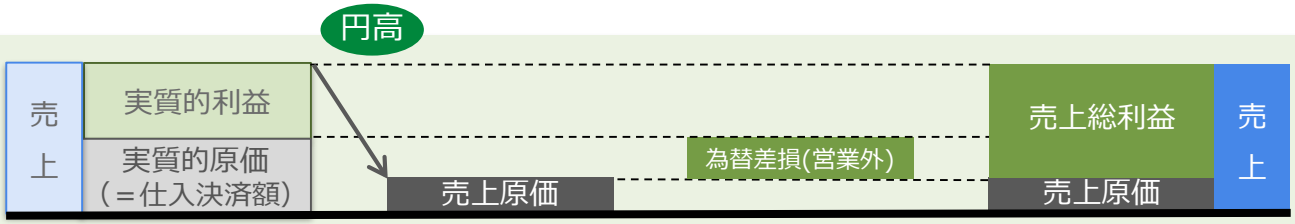
取引が途中で決算をむかえた場合
③時点と④時点の間に期末をむかえた場合、先行して、為替差損益(営業外）が計上される。

為替レート 円安



③時点では為替差益が営業外利益として先行して計上。
→①時点の為替予約の金額より、②時点の仕入価格が高くなるため

為替レート 円高



③時点では為替差損が営業外損失として先行して計上。
→①時点の為替予約の金額より、②時点の仕入価格が安くなるため

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

ご清聴ありがとうございました。

【ご注意事項】

■本資料には、戦略や見通しなど将来の業績に関する記述が含まれております。これらは現時点における当社の判断に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでいます。経営環境の変化など様々な要因により、変更されることがあります。

Copyright © 2019 Lacto Japan Co., Ltd. All rights reserved.

Lacto Japan